

「学校生活に関するアンケート（アセス）」結果と学校の取組について（報告）

1 実施時期 平成30年12月末までに 各校の実情に応じて実施

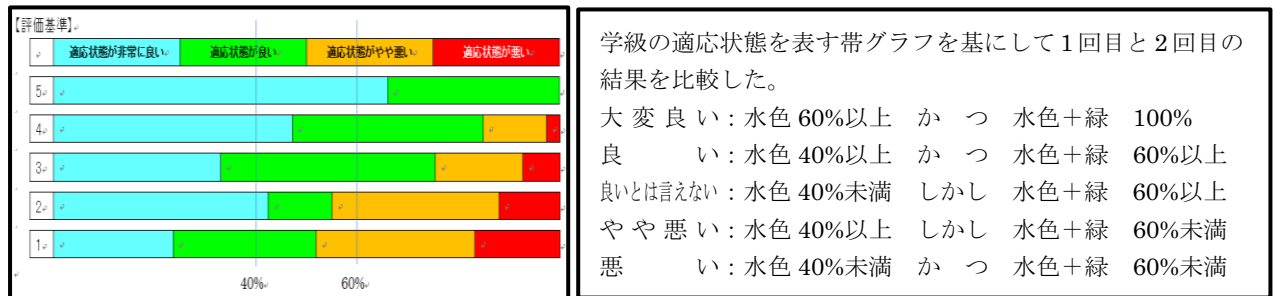
2 対象者数

		児童生徒在籍数	実施数	実施率
小学校	3年	2,429人	2,415人	99.4%
	4年	2,395人	2,383人	99.5%
	5年	2,450人	2,432人	99.3%
	6年	2,417人	2,399人	99.3%
中学校	1年	2,302人	2,273人	98.7%
	2年	2,296人	2,239人	97.5%
	3年	2,448人	2,381人	97.3%
計		16,737人	16,522人	98.7%

3 「学校生活に関するアンケート(アセス)」実施後の対応について

		事後対応の内容	小学校	中学校
①	学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて学年で情報共有できている		100%	100%
②	学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて個別支援をしている		100%	100%

4 「学級全体としての適応状態」の変容について



	生活満足感		教師サポート		友人サポート		向社会的スキル		非侵害的關係		学習的適応	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
小3	95%	90%	92%	95%	95%	96%	99%	96%	99%	100%	99%	100%
小4	91%	92%	94%	94%	96%	96%	96%	95%	97%	99%	99%	98%
小5	100%	99%	98%	97%	100%	100%	100%	99%	99%	100%	98%	100%
小6	100%	99%	100%	95%	100%	100%	100%	99%	99%	100%	98%	100%
中1	98%	98%	97%	96%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	95%
中2	99%	99%	95%	94%	100%	98%	100%	100%	100%	100%	94%	90%
中3	79%	90%	85%	94%	100%	100%	96%	98%	100%	100%	69%	85%

・上記の一覧表は、学級の状態が「大変良い」又は「良い」に当てはまる学級数の割合の変化を示した。  
 ・2ポイント以上、低下したところに着色

【学級全体への主な取組状況】…各校へのヒアリングから

- ・夏季休業中の研修で教わった「プログラム（10人じゃんけんや気持ちすごろく）」を学級で実施し、子ども同士の関わりを深めるように取り組んだ。

- ・研修で学んだ共感的受容的な態度で子どもの話を聞くように心がけている。
- ・協同学習の手法を取り入れたことで、子ども達が良く話すようになってきていると感じる。
- ・管理的な学級経営になっていないか、今一度学年団の教師らでお互いの学級経営を確認する場を設けている。
- ・個人の特性票をもとに、支援の方策を個別に検討している。

#### 4 「個人の適応状態」の変容について ※生活満足感のレベルに注目して

	要支援レベル①			要支援レベル②			要支援レベル③		
	1回目	2回目		1回目	2回目		1回目	2回目	
小3	0.5%	0.5%	→	4.1%	3.4%	↓	9.3%	8.7%	↓
小4	1.0%	1.2%	↑	4.1%	4.6%	↑	8.4%	6.4%	↓
小5	0.4%	0.4%	→	2.7%	3.3%	↑	5.0%	4.0%	↓
小6	0.4%	0.5%	↑	3.2%	3.8%	↑	7.8%	7.3%	↓
中1	0.3%	0.6%	↑	3.2%	3.5%	↑	5.9%	4.8%	↓
中2	0.2%	0.3%	↑	3.7%	3.2%	↓	6.7%	6.0%	↓
中3	0.4%	0.2%	↓	6.1%	4.5%	↓	7.6%	6.4%	↓

#### 【支援の必要な子どもへの具体的ななかかわり事例】

- ・学年内では情報共有をしながら、担任を中心に見守りを続けている。と同時にS Cに相談に乗ってもらっている。
- ・学力が低いために学校生活で困っている面があるのではないかと担任の見立てとアセスの結果は一致していた。そこで、週1回放課後学習を行い基礎学力の向上を図っている。
- ・学級担任は日々の学習支援に心掛けてきたことで、担任の見立てでは、当該児童の実態が改善傾向にあると考えていた。アセスの結果も改善しており、見立てと一致していた。ただ、当該児童の心配ごとについて保護者から相談があった際、学級全体が落ち着いていない状況もあったため、改善策を講じた。現在は学級の様子は改善し、当該児童も落ち着いて学校生活を送れている。
- ・部活動が一番の居場所になっているので、部活顧問を中心に学年全体でも見守っている。

#### 5 「学校生活に関するアンケート(アセス)」の活用についての聞き取り結果から(工夫・成果・課題)

- ・アセス実施後に、学年ごとにアセス検討委員会を実施し、アセス結果について学年で共有するとともに、対応の方向性等について、共通理解し対応にあたっている。特に、課題が大きく、保護者の協力を得なければならないケースについては、保護者を交えて話し合いをもち、連携して取り組んでいる。
- ・学習の不応感については、積み残しがあることで学習意欲を失っているケースが多く、補充学習などの工夫をしているが、なかなか成果に結びつかない。
- ・発達に課題のある児童生徒への関わり方については、教員の対応力の向上が必要不可欠であり、中学校区内の教員が合同で研修を行うなど、資質向上に取り組んでいる。
- ・個別支援の方策シートをもとに、個別支援の方策を検討し、指導に生かしている。

#### 6 評価

- ・割合の増減については、アセスの1回目から好転し、要支援レベルを脱した児童生徒もあれば、2回目のアセスにより要支援レベルへと悪化していたことが分かった児童生徒、また、要支援状態から変化がなかった児童生徒があることが分かった。年2回アセスを実施したことで、定期的にアセスメントを行うことは改めて早期発見・早期対応につながっていると捉えることができる。次年度以降も同様に取組を継続したい。